

## 東海北陸地協共同組織活動 交流集会在開催されました

9月8日、9日第7回の共同組織活動交流集会在富山市の呉羽ハイツで開催され、岐阜からは実行委員も含め41名の参加でした。

この交流集会是、毎年10・11月の「共同組織強化月間」の始まる前の9月に開催されています。昨年は横浜で開催された全国集会、今年は東海北陸での集会という形で、交互に行われています。この集会で、他県の共同組織の仲間と月間に向けての意思統一がされ、色々な活動報告を聞き、自分たちの地域での活動のヒントになっています。



中八尾のこきりこ演奏やおわら節の演奏と踊りで始まり、記念講演

は「富山イタイイタイ病の歴史と運動」と題し、講師は資料館館長

鏡森さんでした。改めて「イタイイタイ病」について、初めて知る事より深く学ぶことができました。夕食交流会では7県それぞれのアピール企画があり、岐阜企画としてアコーディオン演奏による笠木透の歌の合唱で盛り上がりました。

二日目は5つの分科会①「共同組織を大きくする取り組み」②「地域まるごと健康づくりの取り組み」③「安心して住み続けられるまちづくり」④「平和と社会保障を守る活動」⑤「担い手づくりと職員との共同の取り組み」に分かれて各県の活発な活動報告がされ、それぞれ参加者には学ぶことが多かったようです。二日目の全体集会では、各分科会のまとめのあと、全体のまとめと共同組織月間方針の取り組みについての報告がありました。



第2分科会「地域まるごと健康づくりの取り組み」

次回2年後の交流集会在岐阜での開催予定されている為、友の会大塚会長から取り組みの決意表明がありました。  
 (友の会事務局長 熊崎)

**お金の心配なく、医療と介護の制度が利用できるよう、発言し力をあわせましょう!**

安倍晋三首相が議長を務める「全世代型社会保障検討会議」の初会合が9月20日開かれました。12月末までに中間報告を出し2020年夏に最終報告をまとめる予定です。また、来年2020年1月からはじまる通常国会には、介護保険制度の見直しにかかわる法案を提出することが検討されています。主な内容は以下の3点です。①ケアマネジャーが作成するケアプランを有料にする。②要介護1、2の生活援助サービスを市町村の裁量で行う「総合事業」に移す。③原則1割負担の利用料を原則2割負担にする。続いて2021年に法案の提出が検討されているのが、後期高齢者医療制度見直しの④75歳以上の医療費一部負担・原則1割負担を2割負担にするという内容です。共通することは、保険給付を削減し、利用者負担をふやすことです。

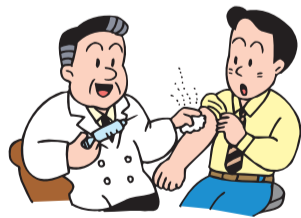
12月22日(日) 受付 12時半 13時～16時  
**第11回 介護保険の明日を考える学習会**  
**権利としてのケア保障をめざして**  
**～生きるを支える医療と介護～**



基調講演 岡崎 祐司さん 1962年生まれ 佛光大学社会福祉学部教授  
 すこやか透析センター2階 (岐阜市北山1-13-18)  
 参加費 300円(当日会場にて) 岐阜県民主医療機関連合会主催  
 問合せ先 介護保険相談センターすこやか  
 TEL058-244-3018、FAX058-241-2005

### インフルエンザ予防接種特別外来についてのお知らせ

みどり病院ではこの時期、10・11月インフルエンザ予防接種の特別診療日を設けていましたが、今年はワクチンの入荷の関係で、特別診療日を設けることができませんので、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。



なお12月以降の接種についての詳細は、みどり病院ホームページをご覧ください。みどり病院までお問合せ下さい。

問い合わせ先: 058-241-0681 (みどり病院)

### 健康 春秋

第七東海北陸地協共同組織活動交流集会的初日には「富山イタイイタイ病の歴史と運動」と題し鏡森定信氏(イタイイタイ資料館語り部・名誉館長の講演を聞きまし)私の学生時代、公害問題を考えるサークルに所属し、当時大きな社会問題であった、四大公害、特にイタイイタイ病の原因は神岡鉱山からの廃液に含まれるカドニウムであることは事実としては知っていましたが、イタイイタイ病で苦しむ患者の苦痛や生き様にまで思いを巡らすことはできていなかったようです。最近、水俣病を主題にした小説『苦海浄土』三部作を読み終えたところでした。作者は石牟礼道子氏。ここでも、水俣病についても浅はかな理解でしかなかったことを思い知らされました。長くつらい、時に差別と偏見に耐えながら裁判闘争に耐えた魂の叫びをどう受け止めることができるのか。今も問われています。イタイイタイ病についても、全く同じで、明治期の風土病としての扱いか、医師や科学者の地道な追究により、原因と企業の責任は明らかになったのですが、どれだけ患者に寄り添い、その苦しみを共有することができたのか。その思いがない限り、真にイタイイタイ病を理解したことはならない。そんな思いを強く持つことのできた講演でした。(K)